

## 上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 学校教育学系 教授

氏 名 瀬 戸 健

研究期間 平成28年度～平成29年度

研究プロジェクトの名称	「発達支援体制をもつ幼保小接続プログラムの開発に関する実践的研究」
研究プロジェクトの概要	<p>幼保小連携や接続では、アプローチプログラムとスタートカリキュラムによる、なめらかな連携・接続が目指されている。しかし、それを実践している自治体は必ずしも多くない。その原因として一前（2015）は、保育士や教員といった実践側のニーズに合っていないのではないかと推論する。確かに実践側が重視するのは、一人一人の子どもがどのように基本的生活習慣を身につけているのか、傾聴する力がついているのか、衣服の着脱は一人でできるかといったことである。それは、学校生活を行うのに不可欠な内容だからであろう。</p> <p>そこで、子どもの成長を基本的生活習慣の観点から追いながら、保育士や小学校教員がどのように親密になり、情報交換ができるようになるのか、それが一人一人の子どもにどのように働くのかを、A市の保育士会と小学校教員との合同研修を事例として調査した。</p>
研究成果の概要	<p>A市保育士会は、開発した基本的生活習慣のスマールステップの評価表を活用し、子どもの基本的生活習慣の成長過程をとらえるとともに、特別な支援を必要とする子どもを早期に発見し、加配保育士を配当するなど保育環境の整備に効果を上げている。</p> <p>保育所から小学校への接続は、知的な成長に関する接続よりは保育士や小学校教員が重視する基本的生活習慣を優先することにより、一人一人への対応が容易になる可能性がある。</p> <p>幼保小接続にあたっては、保育士・幼稚園教員と、小学校教員との情報交流が大切であり、そのためにA市では2回の連絡会、保育士による小学校でのスタディメイト体験、小学校教員による保育所参観等が準備されて、幼保の保育士・教員と小学校との人間関係づくりが、結果的に発達支援体制をもつ幼保小接続プログラム開発につながる。</p>
研究成果の発表状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年8月 日本学校教育学会第32回研究大会（上越教育大学）自由研究発表 「教員や保育士等、実践側のニーズを踏まえた幼保小接続の試み」として発表</li> <li>・平成30年5月 日本保育学会 第71回大会（宮城学院女子大学）自主シンポジウム「子どもの利益を最優先する幼・保・小県警とは—取り組みの成果と課題—」として発表予定（登録済）</li> </ul>
学校現場や授業への研究成果の還元について	事例のデータを収集したA市幼保小接続研修会に参加し、取り組みの状況やその方向性についてアドバイスする機会を得た。